

## 第6回電気絶縁材料シンポジウム 開催にあたって

絶縁材料常置専門委員会  
委員長 犬石 嘉雄

電気絶縁材料シンポジウムも本年度6回目をむかえ講演件数、参加人員とも堅実に増加して、わが国における電気絶縁関係の発表・討論の場としてほぼ定着した地位をもつに至ったことは御同慶にたえない。これは、もちろん創設以来の電気学会関係者、とくに電気材料技術委員会、絶縁材料常置専門委員会および絶縁材料コロナ劣化・耐電界性・耐熱性試験法各常置専門委員会の御尽力と講演者・参加者各位の御支援のたまものと信じており、担当委員会を代表して改めて心から御礼を申し上げたい。

今回は、特に初めての試みとして9月17日、18日の両日にわたって大阪で開催することにした。この結果をみて、将来も時には地方で開催することを検討したい。

本年は特別講演のため、西独 Braunschweig 工科大学の Kind 教授を招待し、エポキシ樹脂の放電劣化関係の話をしてもらうことになった。快よく招待をうけられた同教授に謝意を表するとともに、財政的に支援して頂いた産業界の方々に御礼を申し上げたい。

今回とりあげたシンポジウムの特別テーマとしては、絶縁物中の電荷輸送、試験法、直流絶縁、回転機絶縁、低温絶縁、トリーイング・コロナなどである。本年も応募講演数が多かったため、講演のテーマによっては絶縁材料研究会の方へまわさせていただいたので、講演者の御了承を得たい。

なお、本年の新しい試みとして比較的焦点のはっきりした電荷輸送の分科とトリーイングの分科の一部でレポート方式を採用した。これは適当なレポートによって多数の論文を分析、整理した結果を話してもらい討論に充分時間をさいて参加者も交じえて結論を積み上げ、問題点を明らかにしようとする試みである。

この試みが成功すれば、今後シンポジウムの講演収容数をふやす意味からも大巾にとり入れたいと思っている。

本シンポジウムも回を重ねるにつれて色々な問題点が出ているが、今後各委員はもとより参加者各位からも卒直な意見を出していただいて改善に努力したいと思っている。思いつくままに問題点をあげると、

- ( i ) 応募件数の増加と限られた時間の調和
- ( ii ) 外国人講演者数の増加